

安岡正篤ノート*目次

第一章 安岡正篤先生と私

1. 傑出した碩学・安岡正篤 14

わが人生の師・安岡正篤 14

安岡正篤の学問遍歴 15

2. むさぼり読んだ安岡本 19

安岡先生の本との出会い 19

安岡教学の骨格となる四冊の本 20

二十二冊の講義・講演本 22

安岡正篤と吉川英治 23

安岡本の読み方―初心者への体験的アドバイス 25

第二章 安岡教学の目指すもの

- 四部作に詰まったエッセンス 27
- 易しいものから少しずつ 29
3. 片言隻句の魅力 30
- 簡潔にして端的に表現される東洋思想 30
- 私の心に残る片言隻句 33
1. 古人先賢の学問姿勢から学ぶ 42
- 孔子につながる学問姿勢 42
- 『史記』と『資治通鑑』を讀破 45
- 古典を解釈して再提示する 47
- 魂の自由なる飛翔を求めて 49
- 広くすべてに学ぶ 50

個人の魂から発する学問 52

心照古教、自分が主体となつて古典を読む 54

2. 安岡教学の普遍性と不易性 56

東洋の「四部の学」 56

東洋の帝王学・宰相学を活学する 57

東洋思想に基づくリーダー論 59

陽明学を日本に普及させた安岡正篤 65

第三章 安岡正篤の人間学

1. 人間学とは何か 70

四部の書に基づく人間学 70

人間の根本を養う 71

2. 人間学の学び方 73

人物に学ぶ——人間学の学び方① 73

偉大なる人の足跡を知る 75

偉人の生き方・思想に共感する 77

体験の中で学ぶ——人間学の学び方② 79

自己修養は自助努力 82

3. 人間学の基本条件 84

人間の本質的完成を目指す 84

自ら靖んじ、自ら献ずる 85

第四章 君子を目指せ、小人になるな

1. 君子を育てる 90

金鶏学院での教え 90

一燈照隅 万燈照国 92

君子になる六つの条件 94

安岡教学を实践する 95

物を開き務めを成す 96

君子をつくるSBI大学院大学 97

2. 東洋哲学の生粹を身につける 99

東洋哲学の生粹とは何か 99

自己維新の三つのプロセス 102

安岡教学の今日的意義 104

第五章 世界に果たす日本の使命

1. 世界の中の日本の現状 108

GDPのランキングに見る日本の退潮 108

顕著な精神的・道徳的な退廃 109

身を美しくするしつけ 111

管子の四維 112

戦後教育の残した傷痕 113

2. 経済社会と道徳精神 115

経済と道徳は両立する 115

過去から未来へ日本人のあり方を提言する 117

繁栄の源にあった精神の力 118

3. ナショナルアイデンティティを追求する 121

安岡正篤と日本のナショナルリズム 121

ナショナルリズムの三つの側面 123

受容と変容によって発展してきた日本文化 125

日本民族の特性 128

日本が再び立ち上がるために 130

人間の背骨をつくる人間学 132